

ベストクラス選定理由書

作成者：稲垣導彦、石橋千恵、榎本良祐、常峰丈裕、福田裕子、山中一英

科目名称	包括的児童生徒支援に関する事例研究（昼間①クラス） （担当教員名：松本 剛、隈元 みちる、山本 真也）		
課程	： 大学院（専門職）	開講時期	： 前期
授業形態	： 講義・演習	授業規模	： 31人以上
インタビュー対象教員名	松本 剛、隈元 みちる、山本 真也 ※敬称略 （実施日時：8月17日(火)14:50～15:40 ; 実施場所：Zoomによる実施）		
インタビュー対象受講者名	小倉 弘子、堤 佳代 ※敬称略 （実施日時：8月17日(火)18:00～19:00 ; 実施場所：Zoomによる実施）		
選定理由	<p>圧倒的な高評価点および「豊かな学び合いが行なわれていた」という異口同音の批評内容に因る。</p> <p>【担当教員に対するインタビューより】</p> <p>受講者の多様性（学校種・立場・年齢・身分（現職／ストレート））が阻害要因ではなく、学びの豊かさに繋がるものとなるよう工夫した。具体的には、次の四点が特筆すべき事項である。</p> <p>①グループディスカッションを毎回取り入れることで、受講者間交流の機会を確保した。そこで、身分や立場の垣根を越えた学び合いが行なわれた。受講者の皆さんの学びに向かう素晴らしい姿勢があったからこそ、豊かな学びの場となったと考えている。</p> <p>②提供する事例や紹介する方法論が、特定の学校種に偏らないようにした。事例については普遍性の高いものを、方法論については汎用性の高いものを講義で取り上げたつもりである。学校種を満遍なく取り上げたことで、他校種のことを知ってもらう機会も作る事ができた。</p> <p>③オンラインと複数教員制、それぞれのメリットを活かすことに心血を注いだ。普段はメインの授業者の話に口を挟みづらいが、Zoom では疑問に思ったことをすぐに訊ける。受講者にとってもこの点が良かったようで、我々のやり取りによって学びが深まったという感想を頂けた。</p> <p>④受講者の皆さんに協働して学んでもらうスタイルを採った以上、我々がバラバラだと「看板に偽りあり」ということになってしまう。そのため、担当者三名で講義をどのように作り上げていくかについて、話し合う機会を多く設けた。</p> <p>【受講生に対するインタビューより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義での発問に対して、その場でチャットに書き込むという回答方法が採られていた。そこで、他の受講者の意見を目にするを通して、自分にはない考え方や視点に触れることができた。 ・forms で毎講義後に感想の書き込みや設問への回答を行っていたが、先生が感想や回答に言及する時間が講義冒頭に必ず設けられていた。そこでも他の受講者の考え方に触れることができ、学び合っている実感を得られたように思う。 ・オンライン講義に関して、周囲にちょっとした疑問を気軽に訊けないことには困ったが、グループワークではパソコン画面を一枚隔てることで、逆に相手の話をしっかりと聴くことができた。 ・三名の先生方の連携が素晴らしかった。互いの専門領域に立ち入ることなく、三通りの考え方を示してもらえたため、こちらは自分が一番納得できるものを選ぶことができた。ここで先生方の主張が矛盾していたり食い違っていたりすると、こちらは困惑してしまうが、そのようなことは一切なかった。 		